

# 大江山いくのの道 「十訓抄」

組 番 氏 名

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下り1けるほど2に、京に歌合あり3けるに4、小式部内侍、歌詠みにとら5れて詠み6けるを、定頼中納言  
 たはぶれて、小式部内侍、局にあり7けるに8、丹後へ遣はし9ける人は参り10たりや。いかに心も11なくおぼす12らん」と言ひて、局の前  
 を過ぎ13られ14けるを、御簾より半らばかり出でて、わづかに直衣の袖をひかへて、  
 大江山いくのの道の遠15ければまだふみもみ16す天の橋立  
17と詠みかけ18けり。思はず19にあさましく20て、「こはいかに、かかるやうやはある」とばかり言ひて、返歌にも及ば21ず、袖を引き放ちて、  
 逃げ22られ23けり。  
 小式部、これより歌詠みの、世に覚え出でて来24に25けり。  
 これはうちまかせての理運のことなれども、かの卿の心には、これほどの歌、ただいま詠みいだす26べしとは、知ら27れ28ざり29ける30にや。

傍線、波線、二重傍線部の用言について、活用の種類、基本形（終止形）、ここでの活用をそれぞれ答えよ。

エ	ア	25	22	19	16	13	10	7	4	1
活用	活用	活用	活用	活用	活用	活用	活用	活用	活用	活用
形才	形イ	形	形	形	形	形	形	形	形	形
活用	活用		23 行	20 行	17 行	14 行	11 行	8 行	5 行	2 行
形カ	形ウ	形	形	形	形	形	形	形	形	形
活用	活用		24 行	21 行	18 行	15 行	12 行	9 行	6 行	3 行
形	形	形	形	形	形	形	形	形	形	形

で囲われた助動詞について、本文中の意味、基本形（終止形）、ここでの活用形をそれぞれ答えよ。

u	q	m	i	e	a
形	形	形	形	形	形
v	r	n	j	f	b
形	形	形	形	形	形
w	s	o	k	g	c
形	形	形	形	形	形
	t	p	l	h	d
	形	形	形	形	形